

# 日露戦争後の町村合併

石川県では、明治四十年（一九〇七）、町村制施行後、最初の大規模な町村合併が行われた。およそ戸数一〇〇〇戸、人口五〇〇〇人を標準とするものであった。町村規模を拡大して経費を節減し、日露戦争後の町村行財政の肥大に対応しようとしたものであった。この時期、愛知県、長崎県、鹿児島県などでも大規模な町村合併が進められた。これらは、西園寺公望政友会内閣（原敬内務大臣）の郡制廃止政策の準備として実施されたものであった。

現小松市域では図1のような形で合併が実施された。能美郡では、四五町村中三二町村が合併され、二五町村となった。一方、計画通りの合併が実施されなかった村もあった。安宅町と牧村、西尾村と新丸村、金野村と中海村である。安宅町が港町であること、西尾村、金野村が鉱山を有していたことが理由であったと考えられる。江沼郡では、二五町村中、県の合併案を町村会で承認したのは九町村にすぎず、計画は実施されなかった。現小松市域では、矢田野村と月津村が合併して八田村とし、那谷村を動橋村に編入する計画があったが、実現しなかった。

表1 1907年～1908年石川県合併町村数（『石川県町村合併誌 上巻』より作成）

郡名	合併前 町村数	当初計画 合併後 町村数	合併実施 町村数	合併後 町村数	合併率*
江沼	25	10	0	25	0.0%
能美	45	18	32	25	71.1%
石川	44	15	0	44	0.0%
河北	34	13	26	18	76.5%
羽咋	40	12	0	40	0.0%
鹿島	32	14	0	32	0.0%
鳳至	35	16	16	25	45.7%
珠洲	20	8	15	11	75.0%
計(平均)	275	106	89	220	32.4%

\*合併率=合併実施町村数/合併前町村数

図1 小松地域の行政区画の変遷

明治22年 (1889) 町村制による合併	明治40年 (1907) 日露戦後の合併	昭和15年 (1940) 小松市制発足	昭和30・31年 (1955・56) 戦後の合併	
小松町	板津村	小松市	小松市 (昭和30年)	
安宅町				
牧村				
田川村				
高田村				
千針村				
園江村(白木村)				白江村
沖杉村				
蓮江村				苗代村
浅井村				
本折村	御幸村			
今江村				
串村				
末佐美村	栗津村			
栗津村				
木津村				
中海村		小松市 (昭和31年)		
月津村[江沼郡]				
矢田野村[江沼郡]				
那谷村[江沼郡]				
金野村		大杉谷村		
西尾村				
新丸村				
大杉村	国府村	辰口町		
瀬谷村				
古河村				
里川村				
国造村				



能美郡地図(『石川県能美郡誌』より)

郡、珠洲郡のみであった。江沼郡などは流産となったのである。(山本吉次)